# 職場とHIV/エイズ ハンドブック

HIV陽性者とともに働くみなさまへ

東京都福祉保健局

# はじめに

現在、HIV※1感染者・エイズ※2患者は働く世代を中心に増加を続けており、東京都に寄せられる報告数は全国の約3割を占めています。

残念ながら、HIV感染症※3を完全に治す方法はまだ開発されていませんが、医療の進歩により、服薬でエイズの発症を抑えながら、長期にわたり今までと変わらない生活を送れるようになっています。このことは、企業をはじめとする社会の様々な場に、少なからずHIV陽性者※4がいることを示しています。

多くのHIV陽性者は、充分働くことのできる状態にあるにもかかわらず、旧来のイメージに基づく根強い誤解や偏見のために、職場で辛い思いをしたり、働きにくさを感じている方もいると聞いています。

HIV/エイズに限らず、何らかの病気をもつ人にとって働きやすい職場は、誰もが働きやすい職場です。

このハンドブックにより企業で働く皆様にこうしたHIV/エイズの現状を正しく知っていただき、職場におけるHIV陽性者への理解が深まり、誰にとっても働きやすい職場づくりが進むことを期待しております。

昨年、人事・労務・障害者雇用担当者向けのハンドブックも作成しましたので、合わせて御活用いただければ幸いです。

最後に、作成に当たり御協力いただきました関係機関の方々に御礼を申し上げます。

平成26年3月　東京都福祉保健局

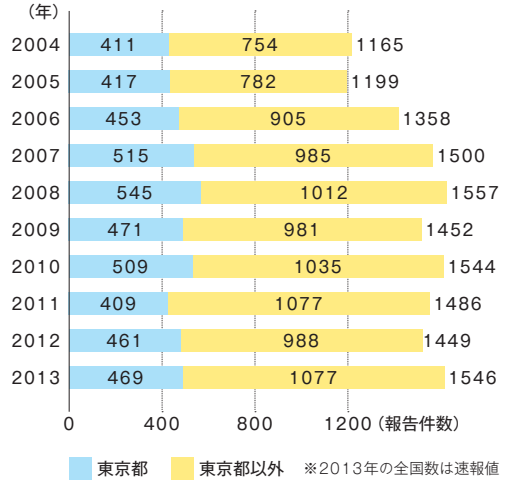
※1　HIV：ヒト免疫不全ウイルス
※2　エイズ（後天性免疫不全症候群）：HIV感染により免疫力が低下し、肺炎等の症状が現れることです。
※3　HIV感染症：HIVに感染している状態を指し、エイズ発症の有無を問いません。
※4　HIV陽性者：HIVに感染している人を指し、エイズ発症の有無を問いません。

目次


2　はじめに
4　HIV陽性者の現在
6　HIV陽性者と職場
8　HIV陽性者の声
10　HIV陽性者と一緒に働くなかで
12　ともに働く人たちの声
14　福祉・医療・生活の情報
15　詳しく知りたい方へ 相談窓口一覧

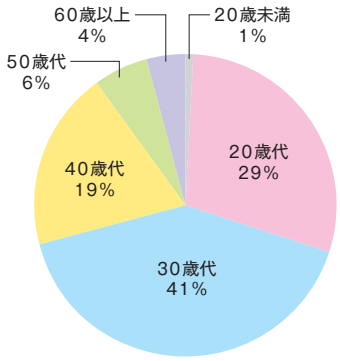

**毎年1,500人前後の人が新たにHIV感染に気づき、その多くが20歳代～40歳代の現役の労働者です。**

### HIV感染者・エイズ患者報告数の東京都と全国比較



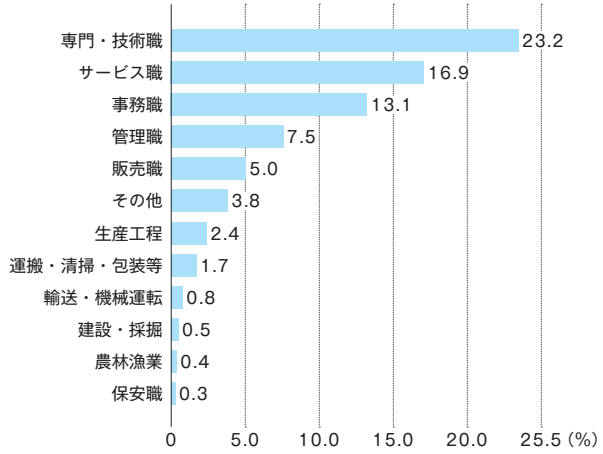

### 東京都のHIV感染者の年齢別割合

（平成25年）




※エイズを発症した人は含まれません。

### HIV陽性者はどのような職種で働いているのか？




★出典：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」（代表：樽井正義）
（調査概要はP5参照）

# HIV陽性者の現在

**HIV陽性者はどういう働き方をしているの？
そんな疑問に答えます。**

**HIV陽性者はどれくらい働いているの？**

## HIV陽性者と仕事・就労時間

働き盛りの男性が多いHIV陽性者。その大半は世帯主として家計を支えています。調査（※）によると、81.4%の人は自営業、正社員、公務員、派遣などとして、医療･福祉･小売・飲食・教育など多様な業種で働いています。そして、その中で雇用されている人の89.4%は、週に5日以上働いているということです。

**同僚として知っておいた方がいいことは？**

## HIV陽性者にとって通院は不可欠

HIV陽性者にとって、規則正しい服薬はもちろん、定期的な通院もとても大切なことです。1～3ヶ月に一回程度、病院で診察を受け、免疫状態と薬の効果・副作用を調べることで、体調を維持することができるのです。よって、職場では、定期的に通院日が確保できるよう配慮するとよいでしょう。調査（※）によると、HIV陽性者の23.7%が月に一度、73.6%が2～3ヶ月に一度通院しています。

※調査概要：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究（代表：樽井正義）」
国内の9病院（主要エイズ治療拠点病院）に通院するHIV陽性者1,786名を対象に無記名調査票を配布、1,095票回収、回収率61.3%。2013年7月～12月実施。

**HIV/エイズの治療って？**

## HIV/エイズの治療は日進月歩

HIVとは、エイズの原因となるウイルスのことです。HIVに感染すると、数年から10数年くらいの年月をかけて免疫力が低下し、通常では生じない肺炎などが引き起こされます。これを「エイズ発症」といいます。しかし、最近はより短い期間で発症するケースも報告されているので、早めに感染に気づくことが大切です。

HIV陽性者は、ウイルスが血液中で増えるのを抑えるために、薬を定期的に服用します。服薬をするとHIVの量が、検査で測定できないほどのわずかな量にまで抑えられます。現在は薬剤の開発が進んでおり、たとえHIVに感染しても治療により感染前とほぼ同じ生活を送ることができますので、早めに感染を知って治療を始めることが肝心です。

**医療費が高そうだけれど？**

## 障害者認定を受けて医療費助成

HIV陽性者は、免疫機能の程度に応じて「免疫機能障害」として身体障害者手帳を申請することができます。身体障害者手帳が交付されると、医療費助成などのサービスが利用可能です。現在、多くのHIV陽性者が身体障害者手帳による医療費助成制度（自立支援医療：更生医療）を利用しており、月々の自己負担額は0～2万円です。詳しくは、P14へ。

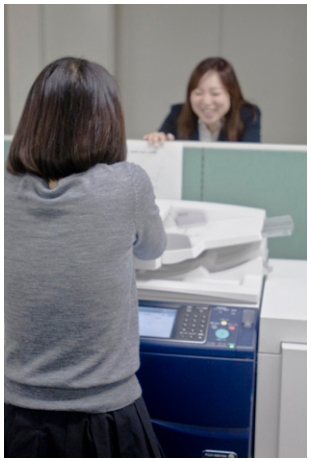
# HIV陽性者と職場

**HIV陽性者と一緒に働くみなさんにも
知っておいてほしいことをここで説明しましょう。**

1

## 日常生活では感染しません

HIVは、日常生活の中では感染しません。HIVは非常に感染力の弱いウイルスで、体液（血液、精液、膣分泌液、母乳）と粘膜や傷口との接触（性行為など）がないと感染することはありません。したがって、HIV陽性者と一緒に働くことで感染することはありません。抗HIV薬を服用してウイルス量を抑え込んでいるHIV陽性者の血液中からは、感染の可能性がより低くなります。



2

## 特別扱いは不要です

HIV陽性者だからといって、特別な扱いは不要です。他の同僚と同じように接してください。HIV陽性者の多くは、定期的な通院と服薬により健康状態をコントロールしています。本人から申し出がない限り、特別な配慮は必要ありません。

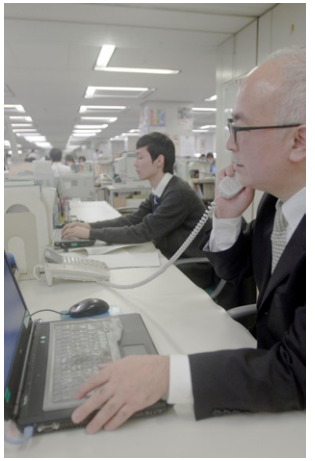


3

## プライバシーには配慮してください

もし職場の同僚から直接「自分はHIV陽性だ」と伝えられたら、その情報をどう扱ってほしいかを、まずは本人に確認してみてください。個人情報をどのように扱い、どの範囲の誰に伝えたいか・伝えたくないかは、他の疾病と同様、HIV陽性者それぞれに違います。職場の誰かに話すということ自体が、HIV陽性者にとってとてもデリケートなことであることへの理解も大切です。

もっとも重要なのは、HIV陽性者と一緒に働くみなさんが持つ、HIV/エイズに関する知識やイメージです。HIV/エイズに関する正しい知識を共有するために、職場でこの冊子を活用しましょう。



4

## 理解を深めたい！もっと知りたいときは？

HIV陽性者と一緒に働くことで、HIV/エイズの知識をもっと深め、同僚の気持ちを理解しようと思う方もいるでしょう。HIV/エイズに関する情報を、気軽に得られるWebサイトや相談機関があります。巻末の情報ページを参照してください。また、HIV検査は、保健所などで匿名・無料で受けられます。

# HIV陽性者の声

**HIV陽性者が職場で実際にどのような経験をしているか、生の声を取材しました。**

## 感染がわかったときに感じたこと

感染がわかったとき、対人接触が多い業種だったので、仕事を続けることに躊躇しました。実際には、働いても問題はないと主治医には言われたのですが…。　Aさん

やはり病名や障害名を職場に伝えるべきかどうかは迷いましたね。多くの人は言っていないと思うし。　Bさん

HIV陽性という検査結果がわかったときは不安になることもあったけれど、社会の一員として働きたいという思いが一番にありました。　Cさん

## 仕事と療養生活との両立

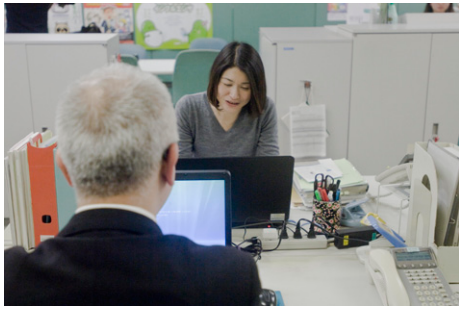
今の職場は、障害者雇用枠で入社したので、日頃から通院予定などを上司に伝えておくようにしていました。ですので、急な体調不良で休みをとらなければならなくなったときにも柔軟に対応してもらえました。　Aさん

職場には病気のことを明かしていません。通院のために休みを取らなければならない時には気を揉みます。　Bさん

体調が安定しているので、通院は仕事に影響がない時間にしており、特に問題にはなっていません。　Cさん

以前の職場で病気を持っていることを告げられず、残業や休日出勤の連続で身体を壊しました。それからは体調に気を遣うようになりました。　Dさん



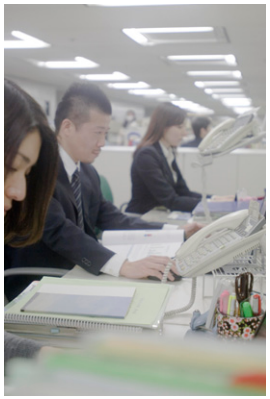


## 仕事とプライベートのバランス

どちらかといえば健康優先で、プライベートも充実させたいです。　Aさん

仕事にやりがいを感じているので、バリバリ働きたいですね。　Bさん

## 雇用主の対応でよかったこと



通院のことがあったので病気のことを伝えたときも特別扱いをするのではなく、他の従業員と同じように接してくれたのが何よりです。　Aさん

今の職場は、病気や障害を持っている人も働きやすい環境なので、わざわざカミングアウトをする必要は感じません。　Bさん

転職に際して、病気を明かすか・隠すかということは大いに迷いましたが、入職前に人事部から同じ部署の人に障害名を知らせておいてもらったことで、自分で打ち明けずに済んだため、よかったです。　Cさん

# HIV陽性者と一緒に働くなかで

**頭でわかっていてもまだ不安が残る人のために**
**HIV/エイズの基礎知識をQ&Aでお答えします。**

**Q** HIVとエイズって違うの？

**A** HIVとエイズは違います「HIV」はウイルスの名前です

HIVはウイルスの名前で、エイズは免疫力が低下して普段は起こらないような病気を発症した状態をいいます。HIVに感染していても、それに気づかないでいる人も多くいます。これまでHIVに感染して数年から10数年くらい経たないとエイズを発症しないと考えられてきましたが、1～2年以内で発症したという報告もあります。

かつては死に直結するイメージだった「HIV感染」ですが、医学と薬が進歩し、現在は通院と服薬によって体調を維持できるようになりました。

**Q** 一緒に食事してうつらない？

**A** うつりません

HIVは非常に感染力が弱いウイルスです。目の前で咳やくしゃみをされたり、一緒に鍋をつついたりすることでは感染しません。



**Q** HIV陽性者は周りにいないでしょう？

**A** 身近にいるんです

じつは身近な存在になるくらいのHIV陽性者がいます。でも、それがわからないのは、告白したときの差別・偏見を恐れるため、HIV陽性者がカミングアウトしたくてもできないことも大きな理由の一つ。まずはHIV陽性者が身近にいる・いないに関わらず、このHIV/エイズの特性や病気の正しい情報について知ることが大切です。

**Q** HIV陽性者と一緒に働いていて本当に問題ないのかな？

**A** ありません

たとえば肝炎だと聞いて付き合い方を変えるでしょうか？　普段は特別な配慮をせず、その人が調子が悪いときは同僚としてサポートするでしょう。HIV陽性者に対しても同じです。HIV陽性者は通院と服薬が必要ですが、その頻度もそれほど多くありません。しかも、前述のとおり、HIVは非常に弱いウイルスなので、職場で働いていて感染することもありません。

# ともに働く人たちの声

**すでにHIV陽性者と一緒に働いている同僚のみなさんから、生の声を聞きました。**

同じ部署の同僚からHIVに感染していることを打ち明けられました。普段の様子からはまったく想像もしていませんでしたが、抵抗は感じませんでした。
Eさん（同僚）

この病気に関する知識もない中で、突然、この病名があがり、人事部の中でも、いろいろな戸惑いが生じたのも事実ですが、外部の専門家に相談することで、他の病気を持つ社員と同様の対応でいいことがわかりました。
Fさん（人事）

HIV陽性と知っても、受け入れることに迷いはなかったのですが、最初はあまり病気に対する知識がありませんでした。直属の上司と人事担当のみが病気のことを知っています。本人に対しては、他の社員へ知らせるときは慎重にするようアドバイスしました。
Hさん（人事）

## 感染を聞いたときに感じたこと

当時は知識も心構えもなかったため、感染経路などを不用意に訊ねてしまい、本人を不安にさせてしまいました。その後、本人の主治医と話をする機会があって、配慮や対応の方針を決めることができました。
Iさん（人事）

人材紹介会社の方が心配してくれていたのですが、本人の人となりや経歴を買っていたため問題なかったですね。
Jさん（人事）

優秀な部下から病名を告白されました。本人は不安ながらも仕事に迷惑をかけたくないとの思いで伝えてくれたのだと思います。本人の体調を確認すると、安定しているとのこと。今、その情報は自分のなかだけにとどめています。
Kさん（人事）



最初はHIVを持っている人という印象が強かったのですが、次第にそのことは時々思い出すくらいのことに変化しました。今では彼のおかげで随分とHIVの知識がつきました。
Gさん（同僚）

思っていたような健康面での心配は必要ありませんでした。その分、周囲が「あの人はどんな障害を持っているのだろう？」と詮索した際の対応が気になりますね。
Hさん（人事）

## HIV陽性者と職場で一緒に働いてみて感じたこと

健康管理などは自分できちんと行っていて、会社の戦力となっています。
Iさん（人事）

障害の種類は関係ありません。今後も適材がいれば採用します。Jさん（人事）

## まとめ

体調が安定しているHIV陽性者に、就労の制限は必要ありません。また、HIV陽性であることを、職場に伝える法的な義務はありません。調査（P5参照）によると、職場の上司、部下、同僚などに、病名を伝えているHIV陽性者はそれぞれ、10％前後います。その一方、伝えていないHIV陽性者にとっては、秘密を抱えることがストレスになっていることも報告されています。

身近にHIV陽性者の存在を知らなくても、病気や障害を持っている人がともに働いていることを前提にして行動することが、誰もが働きやすい職場づくりにつながるといえます。

### 定期通院の必要性

HIV陽性者は、体調を管理するために定期通院が必要です。しかし、多くの専門医療機関は平日に診療を行っており、勤務時間の調整など通院がしやすい環境が求められます。

### プライバシーへの配慮

HIV陽性であることや障害認定を受けていることを知らされた場合、その情報をどう扱ってほしいか、伝えてよい範囲を本人に確認してみましょう。

### 求められる配慮

本人から申し出がない限り、他の同僚と同じ対応で問題ありません。

### もし不安になった時は

HIV/エイズに関してどういう情報に触れてきたかには個人差があり、それぞれが持つイメージはさまざまです。多くの場合、HIV陽性者に会った経験がないことや、古い情報を持っていることが不安の原因になります。不安なときには、相談窓口（P15参照）が役立ちます。

# 福祉・医療・生活の情報

**HIV陽性者や職場の同僚の方々にも
役立つ情報を紹介します。**

## HIV/エイズ診療について

HIV/エイズ診療を提供する医療機関を「エイズ診療拠点病院」といいます。東京都内の拠点病院は、以下のリストを参照ください（URLリンク）。リスト以外の医療機関でも、HIV/エイズを専門とする病院、クリニックがあります。

★東京都内のエイズ診療拠点病院
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kansen/aids/iryo/annai/

★全国のエイズ診療拠点病院
http://hiv-hospital.jp/

## 身体障害者手帳について

HIV陽性者は、条件を満たせば内部障害のひとつ「免疫機能障害」として身体障害者手帳を申請できます。手帳が交付されると、医療費助成など、各種のサービスを利用できます。それによって医療費の助成を受けられるため、自己負担は低く抑えられます。自己負担額は、収入等に応じて決まり、上限額は月々0～2万円。また、免疫機能障害者も他の障害者手帳保持者と同様、障害者雇用制度の対象となっています。

## 働くことについて

HIV陽性者対象のアンケート調査では、その半数が「働くことに制限は必要ない」と回答。半数は「体調に配慮しながら働きたい」と回答しています。HIV陽性者は定期的な通院ができれば、体調を維持して働くことが可能です。

また、HIV陽性者に限らず、ワーク・ライフ・バランスは全ての働く人々にとって大切です。特に、病気や障害を持つ人、子育てや介護をしている人などに対しては、臨機応変なサポートが必要でしょう。その配慮ができる職場は、誰もが気持ちよく働ける場所になるでしょう。



# 詳しく知りたい方へ

## 相談窓口一覧

### HIV/エイズの基本情報など

**東京都福祉保健局「エイズについて」**
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kansen/aids/
基礎知識、職場とHIV/エイズに関する印刷物の紹介、講演会や研修会などのイベント告知、医療機関、東京都のHIV/エイズ発生動向、NPOなどの情報を紹介している東京都のホームページです。検索ワード「東京都　エイズについて」で検索できます。

**API-Net　エイズ予防情報ネット**
http://api-net.jfap.or.jp/
公益財団法人エイズ予防財団が、基礎知識、最新のHIV/エイズ発生動向、関係法令やマニュアル等の情報を紹介しているページです。検索ワード「API-Net」で検索できます。

**地域におけるHIV陽性者等支援のための ウェブサイト**
http://www.chiiki-shien.jp/
職場で活用可能なHIV陽性者支援などに関する資料をダウンロードできます。

**Futures Japan HIV陽性者のための総合情報サイト**
http://futures-japan.jp/
HIV陽性者や周囲の人が必要とする情報やサービスを紹介しています。

### 相談窓口

**東京都HIV/エイズ電話相談**
03-3292-9090
東京都が開設している電話相談です。
月曜日から金曜日：午前9時から午後9時まで
土曜日・日曜日・祝日：午後2時から午後5時まで

**最寄りの保健所**
HIV/エイズに関する相談を受けています。検索ワード「東京都　特別区　保健所」で保健所の所在地を検索できます（多摩・島しょ地域を含む東京都全域の保健所が表示されます）。

### HIV検査情報等

**東京都HIV検査情報Web**
http://tokyo-kensa.jp/
都内の保健所や検査室で匿名・無料で実施しているHIV検査情報や東京都が発行している冊子の情報を提供しています。

発行年月／平成26年3月
発行／東京都福祉保健局
編集／東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策係
〒163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
TEL：03-5320-4487　FAX：03-5388-1432

印刷番号／（25）446
監修／がん・感染症センター都立駒込病院 感染症科医長 今村顕史
編集協力／特定非営利活動法人ぷれいす東京
執筆・編集／よしひろまさみち、生島嗣、大槻知子、若林チヒロ
デザイン／新藤岳史　写真／田口弘樹

この冊子は以下のWebサイトからダウンロードできます。

**http://tokyo-kensa.jp/**